

2014年9月2日

各位

積水ハウス株式会社

ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン

**純度100%の暗闇の中で、絵本を読む。クリスマスを祝う。
5,700人が体験したダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」
9月28日から《秋～冬プログラム》 9月5日チケット発売開始**

積水ハウス株式会社(本社:大阪市北区、社長:阿部俊則、以下「積水ハウス」)は、情報受発信拠点「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」(グランフロント大阪・ナレッジキャピタル内)で、ダイアログ・イン・ザ・ダーク・ジャパン(本社:東京都渋谷区、代表:志村真介)との共創プログラム、ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」の《秋～冬プログラム》を9月28日(日)から12月22日(月)まで開催します。実施に先立ち、9月5日(金)正午よりチケットの発売をWEBで開始します。

昨今、家庭や知人との「絆」や「コミュニケーション」の時間を重視する人が増えている傾向が様々な調査結果でも表れています。内閣府の平成23年度「国民生活選好度調査」によると、「親子の間の対話があり、互いに相手を信頼していること」は約87%の人が「きわめて重要・かなり重要」と回答。また、当社が行った「家族・友人との生活、家事・育児に関する調査」※においても、「家族と過ごす時間は何よりも大切だ」という問いに対し、89%の人が「あてはまる・まああてはまる」と回答しています。

ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」は、光が完全に遮断された「純度100%の暗闇」の中にグループ(6人まで)で入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、住まいにおける様々な生活シーンを体験します。その過程で視覚以外の様々な感覚の可能性と心地良さに気付くとともに、コミュニケーションの大切さ、人の温かさを再発見することができます。

昨年の開催から約5,700人が来場し、対話の大切さ、人の温かさ、五感で感じる心地よさ、家族の絆など、新たな発見や新鮮な気づきがあったという声が寄せられています。

■視覚以外の感覚で、「読む」、「つくる」、「楽しむ」。

秋・冬の季節にちなんだ2つのプログラムを開催します。

○9月28日(日)～11月24日(月・祝)

「真っ暗の中で読書の秋」

真っ暗な中の読書は、こどもの頃の読書とおなじ。

それは物語の世界に冒険しに行ったあの感覚。

『読むを感じる』そんな読書を味わう秋なのです！

○11月27日(木)～12月22日(月)

「誰かの幸せを願うクリスマス」

真っ暗の中の特別なXmasなもの。

大切な人の幸せを願おう。知らない人の幸せも願おう。

自分ことも幸せにしちゃおう。

いずれのプログラムも、参加者同士がひとつの家族となり、暗闇の中で五感を研ぎ澄ましなが、「家族の対話」や「コミュニケーション」の大切さを感じられる内容です。



※ N=1200 / 対象: 全国の既婚男性 / 2011年

■これまでの開催実績

- ・開催日数:2013年4月26日から開始、開催日数は204日間
- ・参加者数:約5,700人
- ・性別:男性41%、女性59%
- ・年代:10代以下6%、20代28%、30代30%、40代22%、50代11%、60代以上3%

<アンケート結果>

～口コミやリピーターも増加～

・「また、参加したいですか?」との問いには、参加者の98%が「はい」と回答しています。来場のきっかけの1位は「知人や家族のすすめ」で、36%を占め、口コミでの来場が最も多く、リピーターも増えています(約10%)。

<前回の体験者の声>

～「新しい経験ができた」「感動した」などの、多くの声～

- ・こんなに楽しめるなんて“びっくり”。人とのふれあいや会話にとっても心休まりました。(50代・女性)
- ・家族で集うことの楽しさ、おうちという共同スペースの大事さを感じました。(20代・女性)
- ・体験すると、肌から何かがしみこむ印象がありました。最初は緊張、その後リラックスと自分にとっての視覚情報が有意義な反面、ストレスになっていると感じました。(30代・女性)
- ・暗闇の中でコミュニケーションは、人間関係の研修に活かそう。さっそく利用します。(40代・男性)

■教育関係機関や企業など、「学びの場」としても活用されています。

「対話のある家」は、多様性を尊重し“誰もが暮らしやすい社会”の実現に向けたプログラムとなっています。暗闇における視覚障がい者(アテンド)の案内のもと、チーム内で互いに協力しあいながら、五感を使い、思いやりの大切さに気づくことができる、様々な“学びの場”としてご利用いただいています。

<教員・学生の体験者の声>

- ・“自分は一人じゃない”それがいかに大切か改めて感じることができました。(60代・教員)
- ・初めは暗くて怖かったけど、中に入るとみんながとても頼りになりました。(高校生)
- ・目が見えなくても感じることはいっぱいあるんだ、ということが分かりました。(高校生)
- ・人の声が聞こえると、自分の居場所が分かる。五感を使う意欲が湧き上がってきた。(20代・教員)
- ・視覚を使わず行動することがとても新鮮で、時間があっという間に過ぎました。(高校生)
- ・真っ暗な中での生活は違和感たっぷりでしたが、慣れてからは楽しかったです。(高校生)
- ・目の不自由な人にも歩きやすい家を作ってあげたいと思いました。(高校生)

<アテンドの声>



“ぐっち”こと、谷口 真大さん(左)

暗闇で、「ただいま」と呼びかけると「お帰り!」と明るい声が返ってくる幸せ。アテンドの私たちも仲間に入れていただいて、「世界でひとつだけの家族」が生まれます。お客様の発見と感動に立ち会えることが、この仕事のやりがいです。

“たえちゃん”こと、北村 多恵さん(右)

暗闇に隠された四季折々の豊かな空間を味わいながら、「家族の思い出」を一緒につくっていけることを、とてもうれしく思います。ここで育まれる何気ない団らんが、多くの人々の生活に根付き、豊かな生活に貢献していけることを願い、毎日お迎えしたいと思います。

■ダイアログ・イン・ザ・ダーク「対話のある家」◀秋～冬プログラム▶ 概要

- ・開催場所 : グランフロント大阪 北館ナレッジキャピタル4階
積水ハウス「SUMUFUMULAB(住ムフムラボ)」
- ・開催期間 : **2014年9月28日(日)～11月24日(月・祝)**
「真っ暗の中で読書の秋」
2014年11月27日(木)～12月22日(月)
「誰かの幸せを願うクリスマス」
- ・チケット販売 : 2014年9月5日(金)正午から販売開始
- ・定休日 : 火曜日・水曜日
- ・所要時間 : 70分
- ・参加人数 : 1グループ・6人まで(完全予約制)
- ・参加料金 : 大人3,500円／学生2,500円／小学生1,500円 (税込)
- ・購入方法 : ダイアログ・イン・ザ・ダークのホームページからのWEB予約
<http://www.dialoginthedark.com/>
(住ムフムラボHPのトップページにもリンクを掲載しております)
- ・チケットに関するお問合せ先 : 0570-006-506 (IP電話からは0986-46-2672)
(火曜日～土曜日12～18時、月曜日・日曜日・祝日休業)

■ダイアログ・イン・ザ・ダークについて

ダイアログ・イン・ザ・ダーク(以下DID)は、1988年にドイツで、哲学博士アンドレアス・ハイネッケの発案により生まれました。参加者は完全に光を遮断した空間の中へ、グループを組んで入り、暗闇のエキスパートであるアテンド(視覚障がい者)のサポートのもと、中を探検し、さまざまなシーンを体験する「ソーシャル・エンターテイメント」です。

世界約30カ国・130都市で開催され700万人以上が体験。日本では、1999年から東京・神宮前で開催しています。「住ムフムラボ」での「対話のある家」は、DIDとの「共創」による関西初の長期開催プログラムです。

■DIDとの共創プログラム「対話のある家」について

積水ハウスは「生涯住宅」思想のもと、長年にわたり「スマートユニバーサルデザイン」などの研究活動を続けてまいりました。

その一環として、「感じる力」、「関係性の回復」、「多様性を認める」を目的に、対話する場を提供し続けるDIDとの共創プログラム「対話のある家」を通じ、日常では得られない気づきやコミュニケーション向上の機会を提供しています。

さらに、ブランドビジョン「SLOW & SMART」を実現する住まいの快適性を深化させる研究や、「コミュニケーション・チームビルディング・リーダーシップ」の養成を目的とした研修等にも展開していく予定です。